

八幡平市地域新電力会社 事業概要

2024年7月23日

〔 八幡平市 アーバンエナジー株式会社
株式会社岩手銀行 株式会社北日本銀行 盛岡信用金庫 〕

1. これまでの電力の地産地消の取組み

2019年1月の松尾八幡平地熱発電所の運転開始以降、アーバンエナジー(株)を介して、地熱由来の電気を民間企業や指定管理施設等が使用。電力の地産地消を実現。

地域の再エネ

松尾八幡平地熱発電所



地域の地熱発電所からつくられた
再エネ地産電力を域内で消費
(電力の地産地消)

UEC アーバンエナジー

供給先

八幡平市内民間施設
指定管理施設等



主な地熱電力のご利用中施設

- いわて生活協同組合 様 …①
- ザマ・ジャパン(株) 様 …②
- (株)住宅工業 様 …③
- (株)たまごファクトリー 様 …④
- 地熱エンジニアリング(株) 様 …⑤
- 東北リゾートサービス(株) …⑥
八幡平マウンテンホテル 様



2. 地域新電力会社の事業化背景

第2次八幡平市総合計画後期基本計画 (2021～2025年度までの5年間)

【基本目標】

4 自然をはぐくみ、 景観にすぐれたまちづくり

自然環境を保全するとともに、自然（再生可能）エネルギーの積極的な活用を図り、自然を愛し、守り、豊かな心が培われるまちづくりを目指します。

【施策】

16 自然エネルギーの有効活用

再生可能エネルギー発電所の電力を地域内で消費し、更に電力資金の域内循環を図る、地域電力小売会社の事業化支援について検討を進めます。

第2次八幡平市環境基本計画 (2022～2031年度までの10年間)

【基本方針】

4 温暖化対策型まちづくり

温室効果ガス排出量の削減と再生可能エネルギーの導入、森林の保全による二酸化炭素吸収によって、**脱炭素を実現するまちづくり**を推進します。

【施策の方向】

④ 脱炭素型地域づくりの推進

地熱発電由来の電力を核とした地域新電力会社の設立を目指します。

3. 地域新電力会社の設立目的

1 地熱エネルギーの地産地消

- ✓ 地産された地熱エネルギーを公共施設や市内事業者で地消
- ✓ 地熱エネルギーを使っている、使えることを地域ブランディングし、企業誘致につなげる

2 地域経済循環

- ✓ 市への事業収益の寄付等を基にした地域振興や脱炭素事業への投資
- ✓ エネルギー代金の域外流出の減少

3 地域脱炭素化の実現

- ✓ 公共施設のCO2排出量削減
- ✓ 市内企業へCO2排出量ゼロの電力プランを提供し、市全体で脱炭素化を促進

4. 事業スキーム

調達予定電源

- 松尾八幡平地熱発電所
- 安比地熱発電所



- 明治百年記念公園
小水力発電所



調達電源
拡大

- 地域の再エネ発電所



八幡平市

・ 政策反映



ア-バンエナジー

・ 電力事業支援



岩手銀行



北日本銀行



盛岡信用金庫

・ 営業支援
・ 情報発信
・ 監査

八幡平市
地域新電力会社

地熱発電所の電源を

核として設立する

全国初の地域新電力会社

供給予定施設

- 民間施設・20施設



(3,218kW、9,508MWh)

- 公共施設・58施設
(庁舎・小中学校等)



(4,034kW、10,115MWh)

供給施設
拡大

- 市内民間施設
- 周辺自治体公共施設



5. 八幡平地熱ゼロエミプラン

- ・地域新電力会社では、環境価値を付加した「八幡平地熱ゼロエミプラン」を提供します。
- ・また、契約先施設には電力契約を証する楯やポスター等を配布します。
「再エネを選択し、使用している施設」と対外的に発信して頂きたいと考えています。

八幡平地熱ゼロエミプラン

実質再エネ100%

CO2排出量ゼロ



+



非化石証書によってカーボンオフセット

【契約先に配布する楯のイメージ】



※発電状況によっては、電源構成に地熱以外の電源が組み込まれる場合があります。

※非化石証書なしの通常の電力プランもあります。

会社概要

会社名	株式会社はちまんたいジオパワー
代表者	代表取締役：川原 太郎
設立	2024年7月23日
本社	岩手県八幡平市
出資金	5,000万円
株主	アーバンエナジー85.0%、八幡平市10.0% 岩手銀行2.0%、北日本銀行1.5%、盛岡信用金庫1.5%
事業目的	再生可能エネルギーの地産地消を通じた事業により 地域の低炭素化と地域経済の活性化の好循環を生み出すこと
事業開始	2025年2月（予定）



株式会社はちまんたいジオパワー

「山」をモチーフに、そこから生み出されるクリーンなエネルギーをつなぐイメージをロゴマークに